

第一回 こんな方にオススメ！ 事業承継による創業(継ぐスタ)という選択肢

事業承継デザイナー・司法書士
ひょうごエンジン株式会社代表取締役
あまなだあわじ合同会社代表
奥村 聡

「中小企業の廃業が増えている。」

あなたも、こんなニュースを一度や二度は見聞きしたことがあるかもしれない。
しかし、ほとんどの人は自分には関係のない話と特に何も感じることもなくスルーしたのではないだろうか。
本当にそうなのだろうか。少し立ち止まって考えてほしい。

■ 増える中小企業の廃業

実際に、中小企業の経営現場では廃業が増えている。
筆者は、中小企業の社長に対する事業承継や廃業のコンサルティングを主たる仕事にしている。そんな身からすれば、廃業予備軍は水面下にまだまだ存在していると感じるところだ。今後も増え続けることは間違いない。
なぜ、廃業が増えてしまっているのか。
その理由は、複合的だ。子供が親の家業を継がないケースが増えてきている。価値観やライフスタイルの変化が大きい。また、経営環境も常に変化している。変化に対応してこなかった企業が今後も事業を続けていくことは困難となっている。

「うちの会社をどうしたらいいのだろう・・・」

社長は悩んでいる。しかも、日本の社長の平均年齢も高齢化の例にもれず、その平均年齢は60歳を超え、タイムリミットが迫っている会社も多い。
まさに、中小企業の社長にとっては受難の時代だと言っていいだろう。

■ これはチャンスの話

しかし、この状況はあなたにとってチャンスなのだ。
継ぎ手のいない会社がちまたにあふれている。ということは、譲ってもらえるかもしれない会社が多くあることを意味する。
しかも、自ら創業するのと比べてはるかに「安く」だ。

引継ぐ事業はこれまで他者がお金とエネルギーを投下して作ってくれてきたものである。もし、同じものをゼロから自力で作ろうと思えば、相当な投資を必要とするだろう。それを考えれば、会社を譲ってもらえるということのメリットは大きい。

金銭交渉面でも、会社の買い手が少ない今の状況は、あなたに有利に働くだらう。誰も継がなければ廃業するしか道がないという背景を考えれば、会社の買取り額はおのずと値下がりする。

顧客や従業員、ノウハウといった経営資源はすでにあるため、事業を軌道にのせやすいこともありがたい。「いつになったら売り上げがあるのか」と不安になる通常の起業と比べれば、雲泥の差だ。

ほどほどの投資額で、すでに基盤のある事業を引き継ぎ、経営をさせてもらう。あまりにおいしい話のように感じてしまうかもしれないが、今の時代においては話ではないのだ。

既存の事業を引き継いで起業すること。日本公庫ではこれを「継ぐスタ」と呼んでいる。

■ 継ぐスタに向く人は？

もし、あなたが起業を考えていたなら、他者から引き継いで始めるという道があることも知っておいてもらいたい。雇用されつづけて生涯を終えることに疑問を感じている方にも、検討していただきたい道である。

既述の通りではあるが、事業基盤はすでにあるのだ。ここで求められるのは改善の力である。0から1を創造する力ではない。改善の力は、サラリーマンをしてきた人にこそ宿っているような気がしてならない。

■ 継ぐスタは社会貢献でもある

「困っている社長の弱みに付け込むような気がする。」

真面目なあなたは、会社を買い取ることに引け目を感じるかもしれない。

とんでもない。むしろ助けることになるのだ。

自分で廃業することになれば、今まで築いてきたすべての経営資源が無くなってしてしまう。会計上も損失となるだろう。

また、会社というものは、現社長が自身の人生をかけて育ててきたものであったりもする。それを社長自身が、自らの手で幕を引かなければいけなくなったことを想像すれば、とても痛々しい気持ちになる。あなたが事業を継ぐことで、社長の人生を肯定してあげることにもなるのだ。

貢献する相手は社長だけでない。従業員や仕入先、顧客等、その会社に関わってきた人みんなを守ることになる。

要は、会社を引継いで経営する。それだけで大いなる社会貢献となるのだ。わざわざボランティアに身を投じる必要はないかもしれない。

■ 自分の事業をもって、自分の人生を生きる

雇用されるのではなく、経営する側に回ってみる。それを、ゼロから起業するのではなく、他者から事業を引き継ぐかたちではじめてみる。

面白いと思わないだろうか。それがやりやすい時代は、未だかつてない。

経営には上手くいった場合の収益的成功や楽しさがある一方で、リスクや大変さもある。だからこそ、事業を行うことの意味を考えてみてほしい。

私は、事業を行う一番の意味は、「主体的な人生を送ることができること」だと考えている。

起業を考えている人、そして、生き方を変えたい人。そんなあなたは、ぜひ、事業承継からの創業をかなえる「継ぐスタ」に注目してほしい。

一般的な起業と継ぐスタの比較

	一般的な起業	継ぐスタ
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・業種や組織形態、経営方法の選択は自由 ・今までに世に無い事業もはじめられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業基盤ができている ・初期投資が抑えられる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・成功確率は継ぐスタに比べると低い ・初期投資（費用や労力）がかさむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する会社を見つけられるかわからない ・前社長との調整に労力を要する

奥村 聡（おくむら さとし）

【プロフィール】

平成21年、自らが立ち上げた地域最大の司法書士事務所を他者へ事業譲渡。コンサルタントに転身し、社長のおわりに寄り添い800社以上を支援。会社分割などの法的手法を武器に事業承継や廃業、過大借金、経営陣の不仲、伸び悩みなどの場面で出口を切り拓く作戦を立案してきた。中小企業経営の循環に貢献し、地域経済の風通しをよくすることを目指す。

著書に『0円で会社を買って、死ぬまで年収1000万円（光文社新書）』や『今ある会社をリノベーションして起業する（ビジパブ）』。日本フルハップの機関誌『まいんど』で18カ月間事業承継コラムを連載。NHKスペシャル『大廃業時代』では、おわりに寄り添う“会社のおくりびと”として出演。

